

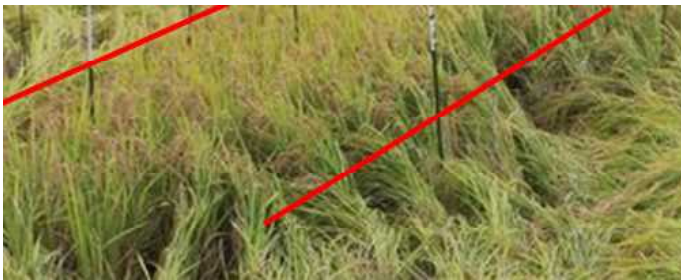
酒米有望品種「吟のさと」の栽培法

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

酒造好適米有望品種として選定した「吟のさと」について、高品質多収栽培法を明らかにした。

2. 研究成果の内容・普及のポイント



(左)吟のさと (右)山田錦
写真1 倒伏に強い吟のさと

表1 収量調査結果

年度	試験区	玄米重 kg/10a	千粒重 g	穀粒	タ
				発心 現白率 %	ン パ ク %
2017	50:5-3	595	26.7	71	7.9
	60:5-5	625	26.8	68	8.3
	50:7-3	621	26.9	75	7.9
	60:7-3	585	26.6	71	8.0
2018	60:5-3	584	26.6	62	9.3
	60:5-5	580	26.9	59	9.8
	50:7-3	664	26.7	60	9.4
	50:7-5	666	26.4	59	9.8

注1)試験区表記は、
「株数/坪」:「基肥-穂肥」(窒素量kg/10a)

1) 栽培方法

過剰な生育により充実不良となり収量が頭打ちとなるため、以下2通りの施肥および栽植密度のいずれかを基準とし、必要以上の施肥や密植を行わない。

(1) 「栽植密度50株/坪、施肥窒素量：基肥7 kg/10a - 穂肥3 kg/10a」

(2) 「栽植密度60株/坪、施肥窒素量：基肥5 kg/10a - 穂肥3 kg/10a」

注1)穂肥の多用は、充実不足や玄米タンパクの過剰をもたらすため避ける。

注2)晩期穂肥を施用すると基肥が少ない場合は充実が向上するものの、玄米タンパクが増加するため避ける。

注3)肥効調節型被覆肥料を用いる場合は120日タイプを用い、施用窒素量は8～10kg/10aとし、圃場条件により加減する。

2) 栽培上の留意点

(1) 晩生品種であるため、標高250m以下を対象とする。

(2) いもち病の抵抗性は「ヒノヒカリ」並みに弱いため、防除を徹底する。

(3) 脱粒性は山田錦同様の「やや易」であるため、成熟後速やかに収穫する。

3. 期待される効果

既存品種「山田錦」からの転換による栽培性の向上に寄与できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム

TEL：0978-37-1160 住所：宇佐市大字北宇佐65